

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	市民環境生活課
			施策統括課長	安食 恵治
	施策名	5 自然環境・景観の保全	関係課	ダム対策課、地域振興課、管財課、農林振興課、農林土木課、商工観光課、業務管理課、自治振興課、事業管理課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	A-1)雲南市の自然環境(水・大気・動植物・水辺・森林) A-2)雲南市の景観(農村風景・河川・山林風景・歴史景観・街並み景観) B)市民	A	市域面積	km ²	実績 見込	553	553	553				
		B	人口	人	実績 見込	42,428	41,917	41,159				
		C			実績 見込			41,159	41,032	40,650	40,323	
	②意図(どのような状態にするのか)		成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	A)自然環境を守り、創造する。 B)美しい景観を守り、創造する。 C)自然環境に対する意識を高め、自然環境保護活動を実践する。	A	自然環境が守られていると感じる市民の割合	%	実績 目標	70.3 (62)	73.0 (62)	75.3 (62)				
		B	景観の重要性を認識している市民の割合	%	実績 目標	93.7 (94)	91.2 (94)	90.8 (94)				
		C	市内が美しい景観だと感じている市民の割合	%	実績 目標	81.3 (81)	77.2 (81)	79.3 (81)				
		D	自然環境保護へ向けて何らかの取り組みをしている市民の割合	%	実績 目標	54.2 (60)	57.3 (60)	51.2 (60)				
	成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)		A)自然環境を守り、創造するためには、自然環境が守られていると感じる状態であることが必要だと考えた。 B-1)景観を守り、創造するためには、まず景観の重要性を認識することが必要だと考えた。 B-2)市内が美しい景観だと感じる市民が多ければ、美しい景観が守られ、創造されている状態だと判断できると考えた。 C)自然環境保護の取り組みをしている市民が多い状態は、意識が高く、実践している状態だと判断できると考えた。									
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)		市民アンケートで把握A)「あなたは雲南市の自然環境が守られていると感じますか？」 B-1)「あなたは景観が重要だと思いますか？」 B-2)「あなたは雲南市の景観は美しいと感じますか？」 C)「あなたは自然を守るために何らかの取り組みをしていますか？」										
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)		A)H20年以前は60%に近い水準で推移していることから、成行値を60%とする。目標値は、引き続き環境・景観保全策を進め、市民の地域ぐるみでの自発的な活動を促進することでH26年に70%とする。B)環境・景観保全については、社会的にも重要視されておりH21実績93.7%と既に高水準であることから、この水準を維持することを目標とする。C)B)と同様に、既にH21実績が80%を超える高水準になっているが、今後さらに取り組みを進め、この水準をH26年に85%まで上げることが目標とする。D)H21年には低下しているが、過去の実績から成行値を60%とする。目標値は、今後も市民の自発的な取り組みを促進することでH26年に過去の最高値程度の65%まで向上させることとする。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 自然環境の保全	市民	自然環境を守る活動に取り組む。	自然環境が守られていると感じる市民の割合	%	実績	70.3	73.0	75.3			
② 景観の保全と創造	市民	景観を守り、創造する活動に取り組む。	市内が美しい景観だと感じている市民の割合	%	実績	81.3	77.2	79.3			
③ 保護保全の啓発	市民	自然環境・景観保全の意識を高める。	自然環境や景観の保護に向けて何らかの取り組みをしている市民の割合	%	実績	54.2	57.3	51.2			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割		行政(市、県、国)の役割	
	●日常生活の中で省エネルギーに努める。 ●自然環境や景観に対し関心をもつ。 ●一人ひとりができることから始める。そして、一人ひとりの行動をグループや地域での取り組みに広げる。		●環境や景観に対する市民の規範となる取り組みを率先して行い、市民・事業者への啓発や市民活動団体の取り組みを支援する。 ●公共施設における省エネルギーに努める。(環境基本計画などを参考に)	
状況変化	A)施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○人口減少、少子高齢化等による農業の担い手不足により、今後も遊休農地(荒地)の増加に伴う景観の悪化が懸念される。○社会情勢に起因して省エネ(節約)への関心は高まりつつある。特に、東日本大震災の影響で、全国的に関心が高い。○2020年にCO2の25%削減(1990年対比)を盛り込んだ地球温暖化対策基本法案が閣議決定されたが、東日本大震災に伴う原発事故により、エネルギー政策の見直しが求められ、変更される可能性が高い。○CO2の削減・啓発を目指し、レジ袋の有料化に向けた検討を行った。		B)この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○特定の清流や街並み等については、住民に自然や歴史的景観を守ろうという活動や強い意識がある。○温室効果ガス削減やバイオ燃料(廃食油)活用についての積極的な取り組みを求められている。○新エネルギーへの転換促進や太陽光発電施設設置補助の拡大を求める意見がある。○風雪害等で倒壊の恐れのある個人所有の建物の対策が求められている。	

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○他市と比較できるデータがないため判断できない。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《5 自然環境・景観の保全》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○自然環境が守られていると感じる市民の割合は7割以上、景観の重要性を認識している市民の割合は9割台、美しい景観と感じる市民の割合は約8割と既に高い水準にある。 ○自然環境保護に何らかの取り組みをしている市民の割合は5割を超え、半数以上の参加が得られており、施策全体としては横ばい状態と判断した。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○自然環境が守られていると感じる市民の割合は、最終年度の目標に到達している。これは、農地・水・環境保全対策事業の取り組みなどが効果を発揮しているのではないかと推測される。 ○他の指標については、概ね目標値どおりと判断した。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 自然環境の保全	・住宅用太陽光発電機器導入補助事業により、機器導入が37件増加し、温暖化防止に寄与した。 ・木次図書館に太陽光発電機器及びLED照明機器を設置することにより、温暖化防止に努めるとともに、環境教育・啓発活動に寄与した。
② 景観の保全と創造	・「農業の振興」施策で取り組んでいる農地・水・環境保全対策事業は、農村景観の保全にも役立った。 ・雲南市の「花」である桜の継続的な維持管理や新たな植栽を行い景観づくりの一翼を担った。
③ 保護保全の啓発	・「環境衛生の充実」施策で取り組んでいる雲南市の環境美化活動重点期間(6～7月)の雲南市クリーン大作戦は、自然環境保全の啓発にもつながった。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○自然環境や景観の保全に対する市民意識を高揚していく必要がある。 ○自然環境や景観の保全に取り組む市民を増やしていく必要がある。	○自然環境や景観の保全に対する市民意識を、レジ袋の有料化等により高揚していく。 ○自然環境や景観の保全に継続的、かつ自発的に取り組む市民を増やしていく。
基本事業	① 自然環境の保全	○引き続き、太陽光発電の設置を促進し、地球温暖化対策に取り組んでいく。 ○市民参加型集材による森林バイオマスエネルギーの活用に取り組んでいく。
	② 景観の保全と創造	○耕作放棄地の解消や森林の整備など、景観の保全に組織的に取り組んでいく必要がある。 ○廃屋が増加しており、景観や安全な生活環境に悪影響を与えている。
	③ 保護保全の啓発	○引き続き、自然環境や景観の保全に取り組む市民が増えるよう啓発していく必要がある。 ○市民を巻き込んだCO2削減の取り組みを行う必要がある。
	④	
	⑤	